



2018年5月30日

国立研究開発法人 建築研究所国際地震工学センター

第157号

〒305-0802 茨城県つくば市立原1 TEL 029-879-0678 FAX 029-864-6777

今月の話題

- 中南米地震工学研修開講
- 関西・熊本研修旅行
- 関西・熊本研修旅行の写真

● 研修データベース

IISEENET(地震防災技術情報ネット)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース(修士論文概要)

Bulletin データベース

中南米地震工学研修開講

(建築担当の行政官は6月6日(水)まで、構造技術者は7月27日(金)まで)

国際地震工学センター 管理室長 飯竹理広

IISEEでは、今年も建築担当の行政官2名を含む12名の研修生を迎えて、中南米地震工学研修を実施しています(参加国は、エクアドル(1)、エルサルバドル(2)、コスタリカ(1)、ドミニカ共和国(2)、ニカラグア(2)、ペルー(1)、ホンジュラス(1)、メキシコ(2)の8ヶ国。)

研修の開始にあたり、5月15日(火)に、建築研究所講堂において開講式を開催しました。

開講式では、JICA 筑波国際センター高橋政行所長と建築研究所緑川光正理事長が歓迎の挨拶を、エクアドルのサバンドアントン リリアナ ジャケリネさんが研修生を代表して挨拶を行いました。

本研修は、中南米地域での耐震建築の普及や将来の地震被害の軽減に貢献することを目的として平成26年度から実

施されています(これまでの研修修了者数は、10ヶ国から69名(うち建築担当の行政官は7ヶ国から9名)。



JICA 筑波国際センター
高橋政行所長



建築研究所 緑川光正理事長



エクアドルのサバンド アントン
リリアナ ジャケリネさん

地震データベース

2011年3月11日東北地方太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)

論文募集

IISEE Bulletinは、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。



関西・熊本研修旅行レポート

Mr. Naresh MAHARJAN, ネパール, 地震学コース



2018年中南米研修の研修生



関西地方および熊本県への訪問期間中、私は、1995年の阪神淡路大震災、また、2016年の熊本地震の実際のシナリオを体感しました。人と防災未来センターで放映された1995年の神戸地震のビデオは、自然が短時間でどのように街全体を破壊したのかを映し出していて、身震いすると同時に息をのむものでした。また、当時、復興のために一丸となって昼夜働く人々の姿を表した展示は、私の想像を超えるものでした。

淡路島の野島断層保存館では、地震後、遺跡として後世のために保存されている野島断層沿いの地表地震断層を観察することができました。神戸市と淡路島を結ぶ、世界最長の釣り橋である明石海峡大橋からの景色は美しかったです。

震度7が観測された二度の地震を引き起こした2016年の熊本地震は、特に益城町と西原村、南阿蘇村に著大な被害をもたらしました。阿蘇大橋が崩落した南阿蘇村では、揺れが引き金となった地滑りによってJR豊肥本線や道路が押し流され、断層線沿いの多くの建物が損壊しました。



京都 東寺

日本の技術、建物を再建したり山道を安定化させる現場の方々の献身的な仕事は称賛に値するものであり、防災・減災における日本の多くの技術を学ぶ機会を得ることができました。また、日本は自然災害の痕跡をただ保存するだけでなく、その独創性を崩さないように保存するよう努めていることを学びました。

Mr. Tarun CHAUHAN インド、地震工学コース

関西方面と熊本県への研修旅行は私にとって技術的知識を高めると同時に日本文化をより深く知ることができ、非常に濃厚な経験でした。

最初に訪れた美しい京都は遠い昔都であった頃の余韻を感じさせ、完全に私を魅了しました。京都にある世界遺産の中から金閣寺、東寺を訪れたことは最高の選択だったと思います。

次に神戸と熊本を訪れました。神戸は23年前、熊本はわずか2年前に地震によって大きな被害を受けました。この2つの都市は、異なる復興の構想を基に異なった方向からの再建の道をたどりました。



神戸でみた野島断層は地震の被害をそのまま保存してあり、これは次世代へのリマインダーとして大きな役目を果たしています。過去の記憶をそのまま次世代に伝えることは、より良い防災政策を確立するうえで重要であると私はここで学びました。一番感動した景色は明石海峡大橋の一番上からのものです。この橋に用いられている工学の素晴らしさに感動しました。

熊本県では、2016年に起きた地震の被害を目の当たりにし、心が痛みました。ここでは、熊本城の再建作業を見学し、自分たちの文化遺産の保存することの大切さを再認識しました。

この研修旅行訪れた各地での思い出は日本で過ごした大切な時間の一部としてこれからもずっと忘れることなく自分の記憶にとどまることでしょう。



明石海峡大橋



楽しむのは今です。

連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEEと卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国でのご活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお誘い下さい。

iiseenews@kenken.go.jp
http://iisee.kenken.go.jp

バックナンバーは
下記をご覧ください。

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>



関西方面および熊本市への5日間の研修旅行は国際地震工学センターで学ぶ私たち研修生にとっても素晴らしく実りあるものでした。

神戸や熊本など被害地を訪れそこから学んだことはとても興味深く、有益なもので、地震工学研修で得た理論的知識と現場での体験を結びつけることができました。

この研修旅行は私にさらなる学習への意欲を掻き立たせ、母国モロッコの自然災害などによる被害を防ぐために私がここで得たことを普及していこうと決心させ

てくれました。

また、日本では次世代の参考材料にするために被害状況を保存していることに感銘を受けました。野島断層と神戸港震災メモリアルパークがその良い例で、ここに日本の指導者たちの先見の明がうかがえます。

最後に、自然災害によって失われた日本人の方々へ心よりお悔やみ申し上げます。また、この研修旅行を実りのあるものにしてくださった JICA、建築研究所、国際地震工学センターの関係者の方々に感謝いたします。



野島断層保存館

関西・熊本研修旅行の写真



金閣寺



東寺御影堂保存修理現場



人と防災未来センター



人と防災未来センター



阿蘇大橋地区復旧工事現場



防災科学技術研究所 兵庫耐震工学研究センター



阿蘇大橋崩落現場付近



熊本城